

主体的・対話的で深い学びを実現する授業構想【国語】

1. 対象

情報の整理については、「表」「ラベリング」「ベン図」を利用した比較・分類、「フローチャート」を利用した順序や流れの整理(1年次)、「観点」「階層」「軸」といった概念を利用した情報の視覚化(2年次)を学習し、意欲的に取り組んだ上で身に付いている生徒が多い。また、意見と根拠については、プレゼンテーション(1年次)や紹介文(2年次)を作成する言語活動を通して螺旋的・反復的に学習しており、ある程度定着しているが、文章で表すことに苦手意識をもっている生徒が多い。

2. 単元名「根拠の適切さを考えて書こう」(教材名)「モアイは語る—地球の未来」(全10時間)

3. 単元で育成を目指す資質・能力

知識及び技能	意見と根拠という情報と情報の関係について理解することができる。(ア)
思考力, 判断力, 表現力等	根拠の適切さを考えて説明や具体例を加えることで、自分の考えが伝わる文章になるように工夫することができる。(ウ)
学びに向かう力, 人間性等	言葉がもつ価値を認識して、思いや考えを伝え合おうとしている。

4. 授業展開【 単元 】

解決したい課題や問い

「学校は変えられるか？」

新生徒会に意見文を提出し、学校の課題を解決しよう！

考えるための材料

エキスパート活動(意見の根拠とその理由付けを下記の対立軸に沿って検討する)

対立軸「自分と他者」「個人と集団」「自由と統制」

想定される活動

「自分と他者」という観点で意見の根拠を構築しようとする他者の考えを想定する必要があるな。

「個人と集団」という観点で意見の根拠を構築しようとする全体の利益を考えないといけないな。

「自由と統制」という観点で意見の根拠を構築しようとする個々の感じ方に敏感にならないといけないな。

対話と思考(対話を通した協働的な問題解決のプロセス)

・対話の方法

形態:小集団(3人)エキスパート活動→ジグソー学習→クロストーク

・対話と思考のプロセス

意見の根拠を「自由と統制」の対立軸をもとに構築したが、相互関係やそれぞれの根拠の不備を考え、より効果的な根拠と理由付けにしよう。

学習の成果(予想される生徒のあらわれ)

相手に自分の意見を伝え、納得してもらうためには、意見を裏付けする客観的な根拠、それを用いる論理的な理由付け、想定される反論に対する反論が必要なんだな。これから誰かに自分の意見を伝えるときや何かを説得するときにはこのことを応用してみよう。